2022年度人権作品集

生きる

「明珍火箸」

通巻60号

はじめに

姫路市では、人権文化に満ちた社会の実現をめざして、「人権文化をすすめる市民運動」を展開しています。教育委員会では、この運動の一環として、市内の小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校・高等学校の児童・生徒および成人を対象に、人権作品（標語・ポスター・作文・詩）を募集しています。

今年度は、標語の部に六九八点、ポスターの部に六四七点、作文・詩の部に五六六点の応募がありました。この人権作品集「生きる」には、審査の結果選ばれたポスター・標語の特選作品二〇点と作文・詩の特選作品十一点を掲載しています。

その中の一人、灘中学校二年生の松井　慎吾さんは、人権作文『「吃音」という障害』の中で、自身の「吃音」という言語障害のため、困ってきたり嫌な思いをしてきたりした体験等を書いています。そして、「吃音」について調べる中で考えたことを次のように表しています。

吃音が原因で自殺をしてしまったり、ストレスを感じてしまったりするのは吃音のことを知らなくて、吃音症の人をからかったり、吃音症の人を笑ったりする人がいるからなんだと思いました。僕自身、吃音が出てしまってからかわれたりしたとき、そのからかっていた人は吃音のことについて知らなかったのだと思いました。だから僕は、吃音のことを世の中に知ってもらって、吃音症の人がストレスを感じることがなく、安心して暮らせるような世の中にしていきたいと思います。

松井さんは自身の障害について調べることで、偏見や差別の本質に気づき、偏見や差別をなくすために自分のできることに取り組んでいこうと決心することができたと述べています。私達はこの作品を通して、世の中の偏見や差別が「知らない」ことから起こっているということに気づかされます。そして、偏見や差別をなくすには、差別をする側の人たちが「知る」ことを通して、変わっていかなければならないのではないでしょうか。

本冊子「生きる」には、右の作品をはじめ、鋭い感性と豊かな創造力に裏づけられた確かな人権意識をもとに、人権文化の構築に向け、意欲と実践力を高める作品が掲載されています。これらの作品が人権文化に満ちた社会の実現に向けて、学校や地域など各方面で活用されることを心から願ってやみません。

最後になりましたが、すばらしい作品をお寄せいただいた皆様と、ご協力いただきました審査委員、指導してくださった学校の先生方をはじめ、関係の方々に厚くお礼申しあげます。

令和五年（二〇二三年）三月

姫路市教育委員会

もくじ

○はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・姫路市教育委員会

○人権作文・詩　特選作品

（小学校の部）

☆一年生の部

・ふわふわでなかよし　伊勢小　佐藤　まはな…1

☆二年生の部

・ゆめにむかって　大津茂小　尾﨑　乃羽…3

☆三年生の部

・手をさしのべられるやさしいみんなの心　荒川小　中野　公太郎…5

☆四年生の部

・みんなちがってみんないい　別所小　濵口　友哉…7

☆五年生の部

・「十一月十五日」から考えた人権　広畑小　青枝　昊誠…9

☆六年生の部

・私の大切な友達　砥堀小　北川　侑良…11

（中学校の部）

☆一年生の部

・私の耳　坊勢中　桂　明日羽…14

☆二年生の部

・「吃音」という障害　灘中　松井　慎吾…16

☆三年生の部

・子どもの貧困問題について　花田中　グエンティキムイエン…18

（高等学校の部）

・「ふつう」と「とくべつ」　姫路東高一年　梶本　千紗姫…20

（一般の部）

・明るい未来への希望を願って…　野里小校区　寒竹　香子…22

○人権ポスター・標語　特選作品

・人権標語の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

・人権ポスターの部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

・啓発用ポスター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

○人権作品入賞者一覧表

・人権標語の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

・人権ポスターの部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

・人権作文・詩の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

○人権作文・詩　入選作品・・・・・・・・・・・・・・・・31

（表紙）姫路市ホームページ「姫路フォトバンク」より

姫路市ホームページの「人権教育課」に「人権啓発作品のご紹介」として本冊子の「生きる」のデータファイルをアップしています。ご覧ください。

小学校の部

一年生

ふわふわでなかよし

伊勢小学校　一年　佐　藤　まはな

わたしの小学校では、まい月、おや子どくしょしゅうかんがあります。九月のおや子どくしょしゅうかんで、わたしは、おとうさんといっしょに「ちくちくとふわふわ」という本をよみました。

その本には、こんなことがかいてありました。ふわふわことばは、人となかよくなれることば。ちくちくことばは、だれかをきずつけることば。

本をよんだあと、おとうさんとわたしは、おもったことをはなしあいました。わたしは、

「ともだちにやさしくしたらいいんだなぁとおもったよ。」

といいました。すると、おとうさんは、

「まはながいわれていやなことばは、おともだちにはいわないようにね。いわれてうれしいことばは、おともだちにもどんどんいってあげてね。」

といいました。

わたしは、いわれてうれしいことばって、なにがあるかな？とかんがえました。ありがとう、すごいね、がんばろう、あそぼうよ、ほかにもたくさんおもいつきました。

おもいついたことばを、おともだちにいいたくなって、お手がみをかきました。「一りん車がんばってね」とかきました。おともだちは、わたしのお手がみをよんで、にっこりとわらってくれました。わたしはうれしくなって、まえよりもその子となかよくなれたような気がしました。

わたしも、おともだちからうれしいことばをいってもらったことがあります。かぜをひいて学校をしばらく休んだときのことです。ひさしぶりの学校だからドキドキするなぁとおもいながらきょうしつへいくと、みんなが

「まはなちゃん、まっていたよ。」

「いっしょにあそぼう。」

といってくれました。わたしはほっとして、うれしくなりました。ひさしぶりにみんなとあそんだときは、とてもたのしかったです。

わたしは、ふわふわことばはまほうのことばだとおもいます。なぜかというと、いった人も、いわれた人もうれしくなるし、おともだちともっとなかよくなれるからです。わたしは、ふわふわことばが一ねんせいのきょうしついっぱいにひろがるといいなぁとおもいます。おとうさんにいわれたとおり、おともだちにふわふわことばをどんどんいって、これからもクラスのみんなともっとなかよしになりたいです。

二年生

ゆめにむかって

大津茂小学校　二年　尾　﨑　乃　羽

わたしには、今年九十才になるひいおばあちゃんがいます。名前は、みえばあちゃんです。いっしょにすんでいないけど、わたしの家から車で二十分のところにいます。

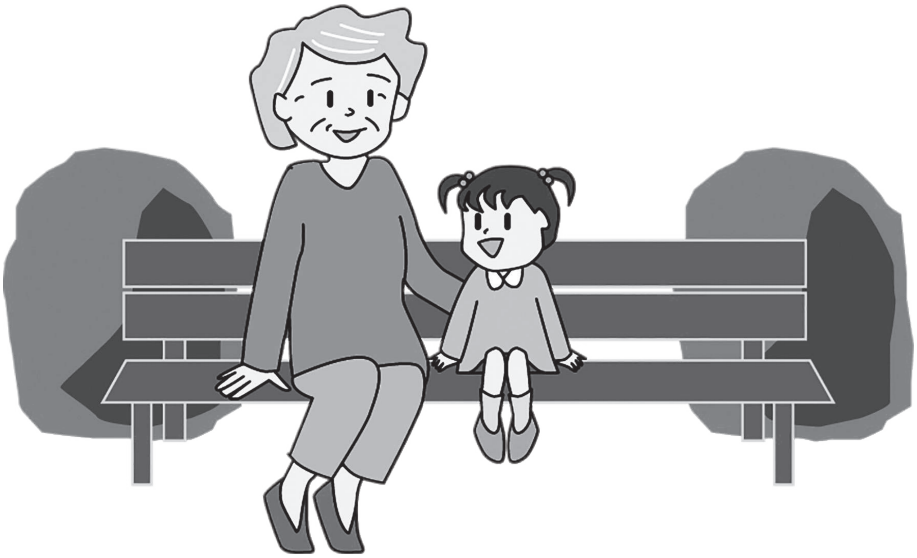
みえばあちゃんは、わたしに色んなことを教えてくれます。あみものやお花作り、ネックレスの作り方も知っています。わたしが、上手にできなくても、ぜったいにわらわないし、できるまでやさしく教えてくれます。むかし、ぬいものの先生だったみえばあちゃんが作る作ひんは、どれも本ものみたいです。やさしくて、いつもニコニコしています。

みえばあちゃんは、ど力もたくさんします。自分で歩けるように体そうを毎日するし、頭の中にけしゴムができないように数字の本を読みます。お出かけしてつかれている日も休まずにがんばるみえばあちゃんは、本当にすごいと思います。

でも、みえばあちゃんは、「これもダメ、あれもダメ」と、よく言います。前よりできなくなったことがたくさんあるそうです。ぬいものもまっすぐぬえなくなったし、小さいところが見えにくくなってきたみたいです。こしも曲がって、せが小さくなって体もよわくなってきました。それでも、ど力して、今よりわるくならないようにがんばるみえばあちゃんは、わたしの目ひょうです。いつか、みえばあちゃんが、自分で何もできなくなったら、わたしがたすけてあげます。その時にたすけられるようにじゅんびをしたいです。たくさんおべんきょうをして、心も体も大きくなりた

いです。

わたしのゆめは、かんごしさんになることです。かんごしさんは、先生のお手つだいをしながら、いたい人やびょう気の人をたすけるしごとをします。わたしは、たくさんの人をたすけてあげられる人になりたいと思います。わたしにそのゆめをもたせてくれたのは、みえばあちゃんです。わたしは、まわりの人から今までにたくさんのやさしさをもらってきました。だから、わたしも人にやさしくできるかんごしさんになりたいです。



三年生

手をさしのべられるやさしいみんなの心

荒川小学校　三年　中　野　公太郎

ぼくがお母さんと買い物に行き、レジにならんでいると、

「すみません、すみません。」

と何度もあやまっているおばあさんがいました。後ろには五人くらいのお客さんがならんでいました。何であやまっているのだろうと思っていました。よく見てみると、おばあさんはつえをついていました。エコバックに入らない商品のふくろをもらいたかったようでした。

「いったいどのふくろがいるんですか。」

と店員さんは、ぼくたちにも聞こえるような声でいっていました。おしはらいが終わったおばあさんは、カートに、荷物を乗せようとしていたけれど、つえをつきながらだと、カートのこまも一しょに動くから、上手に乗せられない様子でした。まわりの大人の人たちも見ないふりをしていました。お母さんは、ぼくにお金をもたせると、おばあさんの所に行きました。

「もしよければカートに乗せましょうか。今日は、なにで来たんですか？。歩いて来たんですか？。それとも車で来たんですか？。」

と聞くと、おばあさんは、

「車で来たんよ。」

と言いました。

「わたしたちも車やから、いっしょに車まで行きましょうか？。荷物も、乗せにくいし大へんやんね。もうすぐしはらいが終わるから、もうちょっとだけ待って下さいね。」

と言いながら、おばあさんのせ中をさすっていた。

おばあさんは、なみだを流していました。
「いつもいつも上手にできんで本当につらかった。ありがとうね。」
お母さんとぼくもしはらいをすませ、三人でたくさんの荷物を車に乗せることができました。おばあさんのカバンには赤いストラップがついていました。ぼくはふくろを一つもっただけなのに、
「お兄ちゃんまでこんな年よりの手伝いをしてくれてありがとう。」
ぼくは、「ありがとう。」と言ってくれてうれしかった。あとでお母さんに、あばあさんのカバンの中についていた赤いストラップのことを聞いてみた。
「どんな意味やと思う？。」
と聞き返された。
「十字かは、たしか、病院の記号でハートは心ぞうだ！」
ぼくはお母さんに言いました。お母さんは、
「そう、あたり！病院の記号！まわりの人からは、ぱっと見て分からなくても、病気の人も、まわりにはたくさんいる。元気そうに見えてもまわりの人たちには、病気と分からない事もある。あのマークのついたストラップをつけている人がいれば、少しでもよいから声をかけてお手伝いしてあげてほしいねん。もちろん相手の意見を聞いてあげてからね。」
ぼくは、「なるほど！」と思いました。色んなところで赤いストラップをつけている人が目に入るようになりました。何かこまっていないかな？と思えるようになりました。小学校のみんなにも赤いストラップの事を教えてあげて、体がよくない人にもやさしく声をかけて、何か手伝いができることがないか考えてほしいと思います。みんなの心がやさしくありますように。ぼくもみんなの手本になるようにがんばります。

四年生

みんなちがってみんないい

別所小学校　四年　濵　口　友　哉

「お前かみ切れよ。」

とラグビーの仲間に毎回言われていやだった。ぼくは、ヘアドネーションをするからのばしているのに。

ぼくは、小さいときからラグビーをしていたので、ずっとかみを短くしていた。短いかみがあたり前だった。テレビや周りで長いかみの男の人をみると、男子なのになんでかみを長くしているのか不思議だった。のばしている理由も知らないのに自分の思いだけで決めつけていた。でもぼくがあこがれている人がかみが長かったので、のばしてみようと思った。ちょうどかみをのばしはじめたころ、お母さんがかみの毛がない女の子にかみを寄付するためにヘアドネーションをすると言っていた。ぼくは、いいなと思ったのではじめた。ヘアドネーションとは、小児がんや先天性の脱毛しょう、ふりょの事故などで頭はつを失った子どものために、寄付されたかみの毛でウィッグを作りむしょうでていきょうする活動だ。ヘアドネーションに必要なかみの量は、31㎝。しかし、31㎝だと女の子用のウィッグを作ることができない。31㎝以上のかみをのばすのに2、3年かかる。しかしセミロング以上のものを作るには、さらに長いかみの毛が必要になる。ぼくは、男の子に寄付をしたいので、31㎝までのばす予定だ。今やっと15㎝なのであと3年ぐらいかかる。

かみの毛をのばしているとみんなが

「早く切れ。」

「暑いやろ。」

と言ってくる。みんなみた目ではんだんしているからだと思う。ぼくもそうだったけど、自分もかみをのばすことでいろいろな理由でのばしている人がいることを知ったし、のばしている人の気持ちも分かってきた。ラグビーをしていても、体の大きい子もいれば小さい子もいる。だけどラグビーには、いろいろな役目があるから「大きい子は使えん」「小さい子は使えん」というのは、差別だ。それと同じく病気や事故などでかみの毛をうしなってしまった子に対して

「あの子かみの毛ないねー。」

とみた目ではんだんをするのはおかしいと思う。

「あの子は～やから。」とみた目ではんだんせずその人がそうなった理由やその人のせいかくをしっかりみていかないといやな思いやつらい思いをする人がいると思う。みんなが相手の心によりそって、おたがい理かいしていけば、平和になると思う。

だからぼくは、かみをのばしていることをこれからもみんなに言われるかもしれないけど、その理由をはっきり伝えていきたい。ぼくの「ヘアドネーションをしてかみがない人に少しでもよろこんでほしい」という思いを伝えていきたい。そうすることで、見た目ではんだんするのではなく、それぞれの人の思いを理かいしようとしてくれる人が一人でもふえてほしいと思う。

「みんなちがってみんないい。」

この作文を書こうと思ったとき国語の授業で学習した金子みすずさんの言葉を思い出した。かみの毛が長い人がいても短い人がいてもいい。みた目がちがっていてもそれがあたり前になるような世界になったらいいなと思う。

五年生

「十一月十五日」から考えた人権

広畑小学校　五年　青枝昊誠

学校で横田めぐみさんのＤＶＤを見ました。横田さんは、バドミントン部の練習が終わって帰宅中にいきなり知らない人たちに連れ去られました。その日が四十五年前の十一月十五日でした。そして、そのまま知らない土地まで連れていかれてしまいました。横田さんの他にも連れ去られた人がいたそうです。ぼくはそれを見終わってとてもひどいと思いました。知らない土地で、知らない言葉で、家族にも会えないからです。

ぼくは、毎日学校から帰ると宿題をします。そしてゲームをします。時々、友だちと遊びます。公園でくつとばしをしたり、おにごっこをしたりします。学校では、体育と図工が好きです。みんなといっしょに走ったり、泳いだりするのはとても楽しいです。学活で、友だちと協力してお店を作るのも楽しかったです。そんな当たり前の学校生活や日常生活が横田さんにもきっとあったと思います。それが一しゅんにしてうばわれてしまったのです。悲しくて絶望したにちがいありません。

北朝鮮での生活を想ぞうしてみました。言葉は分からない、ご飯が口に合わない、友だちが一人もいない、好きなバドミントンができない、家族がいない。そんなじょうたいでは、不安がいっぱいだし、まず何が起きているのか分からなくなると思います。ぼくだったら、にげたくて、死んでしまいたくなると思います。少し考えただけでもぞっとします。ぜったいにいやです。

ぼくは、この作文を書く時に、人権とは何だろうと思い調べてみました。人権とは「人が人として、その社会のルールの中で自由に考え、自由に行動できる権利」であるということを知りました。

横田めぐみさんは、人権がうばわれていると思います。自分がやりたい事ができないだけではなく、今まで当たり前にできていたことがとつぜんできなくなってしまったのです。もしご飯が三食食べられなかったら。もし学校に行って勉強も大好きな友だちと会うこともできなかったら。もしゲームができなかったら。もし家族に会えなかったら。そんなことになったら不安だらけで、たえきれません。だからやっぱり人権はだれもが守られないといけない権利だと思いました。

ぼくが調べた中で、「その社会のルールの中で」という部分が気になり、その意味についても考えてみました。学校に行けば学校のルールがあります。家では家のルールがあります。友だちの家に行けば、友だちの家のルールがあります。ある場所ではやっていいことも、別の場所ではやってはいけないということももちろんあると思います。たとえば休み時間には大声で笑ったり話したりしてもいいけど、授業中は大声でしゃべってはいけません。自分のやりたいことをできるのが人権だけど、他の人の人権をしん害することになるこういは、してはだめだと思います。

今まで人権について考えたことはありませんでした。ぼくが今、ふつうにすごしていられるのは人権が守られているからだということに気付きました。世界中の人たちにも、人権とは何だろうと一度考えてほしいと思いました。

六年生

私の大切な友達

砥堀小学校　六年　北川侑良

私には、ネパール人の大切な友達がいます。名前はアシカちゃんです。二〇二二年の六月に日本に来たそうです。アシカちゃんと私は、土曜日のセンターで初めて出会いました。アシカちゃんは、笑顔のとてもすてきな女の子です。今、神戸の夜間中学校に通っています。本当だったら高校に行きたかったそうですが日本語が分からなかったので、センターの日本語教室で日本語の勉強を土曜日にしながら、二学期から夜間中学校で勉強することにしたそうです。電車に乗ったことがなかったのに、お母さんと二人で電車に乗る練習をして、今では、一人で行っています。私だったら、姫路から神戸まで一人で夕方行って夜帰ってくるなんてことはできません。日本語が分かり駅名が読める私が、そう思うのだから、日本語の分からないアシカちゃんは、どんなに心細かったことでしょう。そんなアシカちゃんを私は、かっこいいなと思います。

十一月の終わりごろに、大学を見学しにみんなで行った時に、ろうかを歩きながら、

「好きなおにぎりの具は、なに？。」

と聞くと、

「シャケが好きです。」

と答えがアシカちゃんから返ってきました。

私は、

「へぇ、シャケが好きなんだ。」

と言いながら、日本語が通じたと思ってうれしかったです。

「私も、シャケが好き。」

と笑って言うと、アシカちゃんも笑ってくれました。

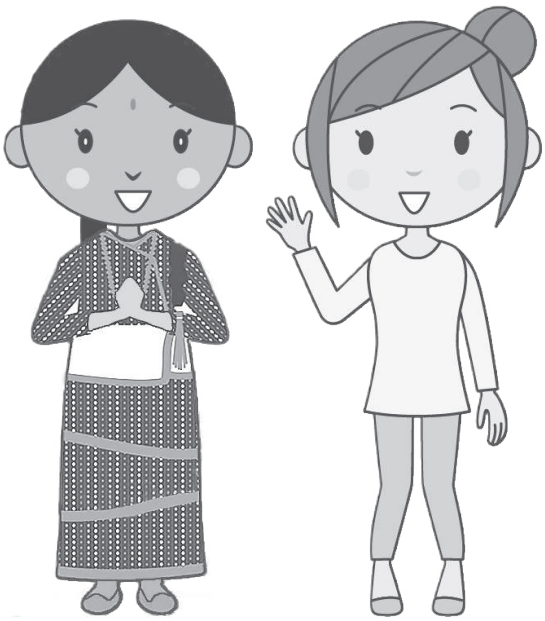
見学が終わって部屋にもどってきた時に、
「ライン交かんしよう。」
と言うと、
「いいですよ。」
とていねいな言い方が返ってきました。私は、きれいな日本語だなと思いました。たった五カ月で、日本語が話せるようになるには、アシカちゃんは、ものすごい努力をしたのでしょう。アシカちゃんて、すごいなぁと私は思いました。その時から、私達は、大切な友達になりました。アシカちゃんは、
「あなたは、私の初めての日本人の友達です。」
と言ってくれました。私は、とてもうれしかったです。アシカちゃんは、私より四才年上なので、お姉さんです。友達と言ったら失礼かもしれないけど、私は、この年上のネパール人の友達がじまんです。こんなにがんばりやさんの友達ができたことがうれしいです。
「おせわになっている先生に、尊敬されるような生徒になりたいです。」
と言っているアシカちゃんは、えらいなぁと思います。そのためにアシカちゃんは、がんばって勉強しています。私は、アシカちゃんが言うのを聞いて、ちょっと自分がはずかしいと思いました。なぜなら、まだまだがんばれるのに手をぬいている所があるからです。アシカちゃんみたいに、私もがんばらないといけないと思っています。
私が、
「かわいいですねぇ。」
と言うと、アシカちゃんが、
「うれしいです。でもあなたの方がかわいいです。」
と言ってくれました。アシカちゃんは、絶対に人を傷つけるようなことは、言いません。反対に、人がうれしくなるようなほめ言葉を言ってくれます。心が広くて、やさしい人だと思います。アシカちゃんは、いやな日本語は覚えていないので

しょうか。それとも、知っているけど使わないのでしょうか。私は、多分知っているけど使わないのだと思います。アシカちゃんは、日本語を聞いて、この言葉は、使ってはいけないと自分で判断しているのではないかと思います。そんなアシカちゃんを、私は尊敬しています。

人間のすばらしさは、どんな所から分かるのでしょう。性別？能力？生まれた所？体力？…

そんなものは、全部関係ないと思います。私は、アシカちゃんと出会って、よくそんなことを考えるようになりました。ネパール人でも日本人でもなく、人間として大切な友達になったと思っています。自分とちがう所を持っているからこそ、相手のすばらしい所が、見えたり、気付いたりすることができることを、私は、アシカちゃんから教えてもらいました。

アシカちゃんは、私の大切な友達です！



中学校の部

一年生

私の耳

姫路市立坊勢中学校　一年　桂　明日羽

私は、生まれたときから耳が聞こえませんでした。生まれたときから、すごくよく寝る子どもで、最初は両親も、育てやすい子どもだと思っていたそうです。しかし、

「音に反応しよいしんのちゃうの。」

という祖父の一言がきっかけで、日赤病院でいろいろな検査をした結果、音が聞こえていないことが分かりました。

日赤病院の先生から、

「先天性感音性難聴です。音は全然聞こえていません。」

という言葉を聞いたとき、父と母は、

「まさか自分の子どもが聞こえてないなんて」

と信じられなかったそうです。そして、どうしよう、どうしようと悩む日が続いたそうです。

そんな時に、母のいとこが、神戸の聴覚特別支援学校に連れて行ってくれました。その学校の先生から、姫路の聴覚特別支援学校を紹介してもらい、生まれて半年経ったぐらいから通い始めました。その学校で出会った先生に、人工内耳のことを聞き、二歳半ぐらいのときに人工内耳挿入手術を受けました。体の中に機械を埋め込む手術なので、その手術を受けるかどうかも、両親はすごく悩んだそうです。

その手術を受けてから、私はいろいろな音に反応するようになりました。反応するたびに、周りの人は喜んでいたそうです。病院の先生にも、

「よく音に反応していますね。」

と言われていたそうです。話す言葉もどんどん増えていき、三歳半ぐらいには、少しずつ人と会話ができるようになりました。姫路の聴覚特別支援学校に四年間通い、年長のときからは、島の坊勢幼稚園に通うようになりました。

幼稚園に通い始めたとき、周りの人は、私の耳についている人工内耳が気になっていたようで、

「何つけとん。」

とよく聞かれました。聞かれるたびに、どう答えたらいいのか悩みましたが、

「この機械で、みんなの声を聞いとるんや。」

と答えることにしました。私が聞こえにくいと知って、周りのみんなは、いろいろなことで私を助けてくれました。例え

ば、先生の話や放送を聞き取れなかったときは、何を言っていたのかを教えてくれました。他にも、私に話しかけるときは、トントンと肩をたたいてくれたり、顔を見て話してくれたり、何度も聞きなおすことがあっても、何回も話してくれたりと、いろんなことを配慮してくれました。私は、それを当たり前だと思わないで感謝しなければいけないと感じています。

生まれたときから何も聞こえない、みんなと違う人工内耳をつけないと何も聞こえないということが、とても嫌だと思うこともありました。しかし、今は、それも自分の個性だと思えるようになりました。そう思えるようになったのも、家族や友達、先生、他の周りの人たちみんなが、私のことを支えてくれているおかげだと思います。これから先も、難しいこともあるかもしれませんが、自分らしく頑張っていきたいと思います。

二年生

「吃音」という障害

姫路市立灘中学校　二年　松　井　慎　吾

この世の中には、さまざまな障害があります。手や足が自由に使えなかったり、目が見えなかったり、耳が聞こえなかったりするなどのさまざまな障害があります。

その中で僕は、言語障害のなかま分けに入る、「吃音」という障害があります。

吃音とは、最初の音や音節を繰り返したり、子音を伸ばしたり、最初の音が出なかったりなどしてスムーズに言葉を発することができない障害です。吃音には種類が二種類あり、発達性吃音と、獲得性吃音があります。ですが、吃音が発生する時期が違うぐらいでほとんど変わりはありません。

吃音は、主に他人や人前で話すときなどの緊張した場面で起こります。人と話すときなどに起こるため、吃音のことを馬鹿にされたり、笑われたりすることもあります。

吃音が起こると、人に笑われたり、馬鹿にされたりして、悲しい気持ちになったり、言葉につまって話がスムーズに進まなくなって、ストレスを感じたりすることなどがあります。このように吃音は、人前などの緊張した場面で出てしまう、最初の音や音節を繰り返してしまう障害なのです。

僕はこの吃音があって困ってきたことがたくさんありました。先生に分からないことを聞こうと思ってもなかなか最初の音が出なかったり、友達と話しているときに、最初の音を繰り返してしまい笑われたりしました。先生と話すときに言葉がつまったりして、スムーズに言葉が話せなかったり、友達に笑われたりしたので、僕は吃音をやめたいと思いました。そのときに僕は、吃音はやめたくなるくらいとてもつらいものなので、このような思いをもっている吃音症の人がどのくらいいるのか気になりました。吃音症について調べてみると、吃音症の人は、日本には約一二〇万人、世界には約七〇〇〇万人もいると言われています。その人たちの中には、吃音が原因となり自殺してしまう人もいます。

僕は、吃音について調べたときにこのような人がいたんだと初めて知り、とてもショックでした。吃音が原因で自殺をしてしまったり、ストレスを感じてしまったりするのは吃音のことを知らなくて、吃音症の人をからかったり、吃音症の人を笑ったりする人がいるからなんだと思いました。僕自身、吃音が出てしまってからかわれたりしたとき、そのからかっ

ていた人は吃音のことについて知らなかったのだと思いました。だから僕は、吃音のことを世の中に知ってもらって、吃音症の人がストレスを感じることがなく、安心して暮らせるような世の中にしていきたいと思います。吃音を知ってもらえる世の中になったら、ストレスを感じたり、吃音が原因で自殺してしまったりする人などは０になるとはいえないけど、ストレスを感じたりする人は少なくなると思います。だから僕は、せめて学校内の人には知ってもらえるようにまずはクラスの人に、クラスの人に知ってもらえたら次は学年のみんなに、もしできたら先生などの人に吃音のことを知ってもらえるように努力をしていきたいと思いました。

幸い、今のクラスや学年は僕から言わなくてもわかってくれているようなので安心して楽しく過ごせています。

僕は、いつかは吃音という障害の治療方法が見つかって吃音のない世の中になってほしいと思います。ですが、まだまだ先の事だと思うので、その前に、吃音という障害のある人がいるということを知っている世の中であり、吃音症の人がからかわれたり、吃音のことを笑われたりせずに安心して暮らすことのできるような世の中になってほしいと思います。

三年生

子どもの貧困問題について

姫路市立花田中学校　三年　グェンティキムイェン

私は、この夏ベトナムへ行きました。そこでは、子ども達が路上で物を売ったり、物ごいをしている姿がありました。私はとても驚きました。なぜなら、私より小さい子ども達ばかりだったからです。日本では、路上で物ごいをしている人なんかいません。格差社会と言われていますが、日本とベトナムはこれほど差があるのかと思いました。一緒に帰った姉は、

「お金をちょっとあげた。」

と、言いました。しかし、私は一度あげたら、どんどん人が集まってきて大変なことになると思ったので何もできませんでした。それから私は、どうしたらよかったのかずっと考えていました。楽しいはずのベトナム旅行が、心にひっかかる旅になりました。

二十五年以上前にベトナムに行った人が、当時のベトナムの路上には、たくさんの子どもや大人達が物ごいをして観光客の周りに集まってきたと言っていました。

十年前に私が行った時も、同じような状態でした。何十年経っても人々の貧しさは変わらないのが不思議でした。

今回のベトナム旅行では、新しいお店が増えていました。例えば、ロッテリアやマクドナルドが目につきました。道路には、日本車がたくさん走っていました。日本と変わらないような生活をしている人たちがいる反面、一歩細い路地に入ると、肉や果物や宝くじを売り歩く女の人や子どもがいました。昼間から子ども達がうろうろしている姿を見て

「この子たちは、学校に行っているんだろうか。」

と、姉に聞くと、

「行ってへんかもな。」

と、返事が返ってきました。それを聞いて私は、ショックでした。

私の知っている日本では、周りの子どもはみんな学校に行っています。小学生や中学生で働きに行っている子どもはいません。

しかし、世界に目を向けるとどちらが多いのだろうと疑問に思いました。調べてみると、一億六〇〇〇万人の子どもが児童労働に従事しているとありました。これは子どもの十人に一人が働いていると言うことになります。児童労働は禁止

されていると思っていたので、意外でした。児童労働が一番多い地域はアフリカで七二〇〇万人といわれています。二番目に多い地域がアジア太平洋地域で六二〇〇万人だそうです。インドやパキスタン、中国などでも問題になっているようですが、私の見たベトナムも同じだと思いました。子どもや女性が物ごいをしないと生活できないというのは、貧困が原因だと思います。児童労働の大きな原因は、その国や地域の貧困問題です。これが解決しないと子ども達はいつまでも学校に行けず、苦しい生活が続くということです。

今世界では、持続可能な開発目標であるＳＤＧｓが大きな問題に取り上げられています。

二〇三〇年までに世界が解決しないといけない問題として取り組まれています。その中に児童労働問題も含まれていますが、あと八年で解決するのでしょうか。今だに多くの子ども達が児童労働をしている現実があり、そんなに早く解決するとは思えません。二十五年前と変わっていないベトナムの子ども達の様子から見ると、ベトナムの子ども達の未来は、どうなっていくのだろうかと考えてしまいます。

経済が発展している国と、発展途上にある国の格差を埋めなければ、この貧困問題からくる児童労働問題は解決しないと思います。どのようにしたら解決できるのか私は、分かりません。

しかし、インドシナ難民としてベトナムから日本にやってきた私たちベトナム人が、大変な生活の中から頑張って日本に定住し、今日の安定した生活を手に入れたのは、どうしてだろうと考えたとき、私は教育の大切さに気が付きました。日本で教育を受け小中高大と進学し、学力をつけ必要な資格を取得したり、生きていくための知識を身に付けたりすることができてきた我々二世三世の世代は、自分の夢を実現させることができるようになりました。私が見たベトナムの子ども達も、教育を受けることが保障され、働かなくてもよい状態になれば、可能性は開かれていくと思います。そのためには、戦争に使うお金があれば、貧困の格差をなくすために支援を必要としている国に援助した方がよいと思います。

高等学校の部

「ふつう」と「とくべつ」

兵庫県立姫路東高等学校　一年　梶　本　千紗姫

私は「ふつう」だ。ずっとそう思っていた。ふつうに学校に通い、ふつうに勉強をして、ふつうにご飯を食べて、ふつうに眠る。自身の生活が「ふつう」ではないかもしれないということを微塵も疑わない、疑うという考えすらなかった。個性を認めてほしいと言いながらも、心のどこかでは自身は「とくべつ」にはならないという自信があった。あなたも、ただ漠然と思ったことがあったのではなかろうか。その漠然とした思いから、私たちは自身の「ふつう」を人に押し付けて、それ以外のものを「とくべつ」だとしてしまうことがある。こういった自身の感覚だけで「ふつう」と「とくべつ」を決めてしまう私たちの行動は、差別や偏見に結びついてしまってはいないだろうか。

私は夏休みに「ひょうご・ヒューマンフェスティバル二〇二二 in ひめじ」に学生ボランティアとして参加した。そのイベントでは、ムーラン（ベトナムの獅子舞）の発表や民族衣装の試着体験、ユニバーサルスポーツ体験ブースなどがあったのだが、私が一番印象に残っているのはユニバーサルスポーツ体験である。ユニバーサルスポーツとは、障がいの有無や、年齢、国籍などにかかわらず、多くの人が楽しめるスポーツのことだ。体験ブースではボッチャやシッティングバレーなど様々な種類の体験が用意されていたのだが、私は卓球バレーの体験をした。卓球バレーというのは、卓球台を使用し、ネットの下でピンポン玉を打ち合うスポーツである。車いすユーザーでも楽しめるようにプレイヤー全員が椅子に座る、視覚に障がいがある人でも楽しめるようにピンポン玉に金属球を入れて音が鳴るようにする、手や指に障がいがある人でも楽しめるようにラケットとして木の板を使う、などルールや用具にさまざまな工夫がされている。そういった工夫があることで障がいの有無にかかわらずプレーができることは素敵だと思ったし、なにより楽しさを感じた。また、一番の収穫は、新たな視点に気づいたことだった。以前の私には、ユニバーサルスポーツというと、障がいのある人など「とくべつな人たちが楽しむもの」だという偏見があった。しかし、体験を通して、「誰でも楽しめるもの」だということに気づくことができたのだ。視点が変われば、昨日の「と

くべつ」はいとも簡単に今日の「ふつう」に変わってしまう。そんなあやふやなものを、あたかもそれが社会の鉄則であるかのように他の人に押し付けてはいけないと感じたし、そういった姿勢が差別や偏見を生む一因になってしまうのだとも思った。

こういった視点の変化は、障がいの有無にかかわらずより多くの人が生きやすい社会の実現のために必要なものだと思う。そもそも差別は、わからないことに対する漠然とした恐怖から起こる。わからないから怖い、怖いから知ろうとしない、そうやって、「わからない」は連鎖して、差別や分断へと繋がっていく。その連鎖を断ち切るためには、他人ごととして傍観するのをやめ、自分ごととして見つめ直さないといけない。そのためには、自分の「ふつう」が主観的なものだということに気づき、凝り固まった「ふつう」から抜け出すことが必要になってくる。

もちろん、視点をいまさら変えるのは難しいと言う人もいるかもしれない。しかし、私のように、ほんの少しのきっかけで凝り固まった思考はほぐれるものだ。だから、あのようなイベントなどに参加することで、自身の「ふつう」がいかに自己本位的なものかということに気づく人が増えてほしいと思う。また、こういった機会を受け取る側だけではなくて、与える側にもなれたら、気づきの輪はさらに広がっていくということも感じている。高校生ボランティア同士の会話で素敵なことを聞いた。「高校の球技大会でもボッチャやったらええのにな。」と。今はまだ、「ボッチャ」とパソコンに打ち込んでも、ひらがなでしか変換されない。「卓球バレー」とネットで検索しても一番上に出てくるのは卓球やバレーの用具を販売するサイトだ。まだまだ、普及への道のりは険しい。だが、この険しい道の先に共生社会が待っていると想像すると胸が高鳴るし、それを創造しなければならないとも思う。

私は「ふつう」だ。ずっとそう思っていた。自身の「ふつう」を疑ったことなどなかった。自身は「とくべつ」にはならないという自信があった。だが、この世界には人に押し付けていい「ふつう」などなかった。独りよがりな「ふつう」しか存在しなかった。新たな視点に立つことで、初めてそれに気づくことができた。これからは他の人に価値観を押し付けることがないよう、いつも心に問い続けたい。今のこの行動は、自身の感覚だけで「ふつう」と「とくべつ」を決めてしまってはいないだろうか、と。

一般の部

明るい未来への希望を願って

野里小校区　寒竹香子

私には十二歳になる息子と九歳の娘がいます。今年十二歳になる息子は、国指定の難病「ソトス症候群」と言う遺伝子の疾患があります。それに伴う知的な遅れもあり、現在支援学級に籍を置いています。普通級での時間もたくさんあり細かなトラブルはありますが、学校が大好き!!友達と過ごす事も大好き!!お休みも無く元気に通学しています。

勿論、何も無くここまで来た訳ではありません。思い返せば十二年前に病院で医師から病名を告げられた時は、言葉の衝撃で頭が真っ白になったことを思い出します。この先の息子の将来を思うと毎日が悲しくて、それでも前を向いていかなければならず随分悲観的になっていましたが、悲しい時間も息子に関わってくれる友達の温かさや人間関係に救われました。これも学校の先生方や放課後デイサービスの先生方の細やかな配慮と六年間普通級の子ども達が息子に対して特別視する訳でもなく、教室に息子が居ることが〝当たり前〟で、おそらくクラスの子ども達は、何の違和感もなく過ごしてくれていると思います。居場所があり、安心して毎日の生活を送れている事が学校へ行きたいと思わせてくれているのでしょう。

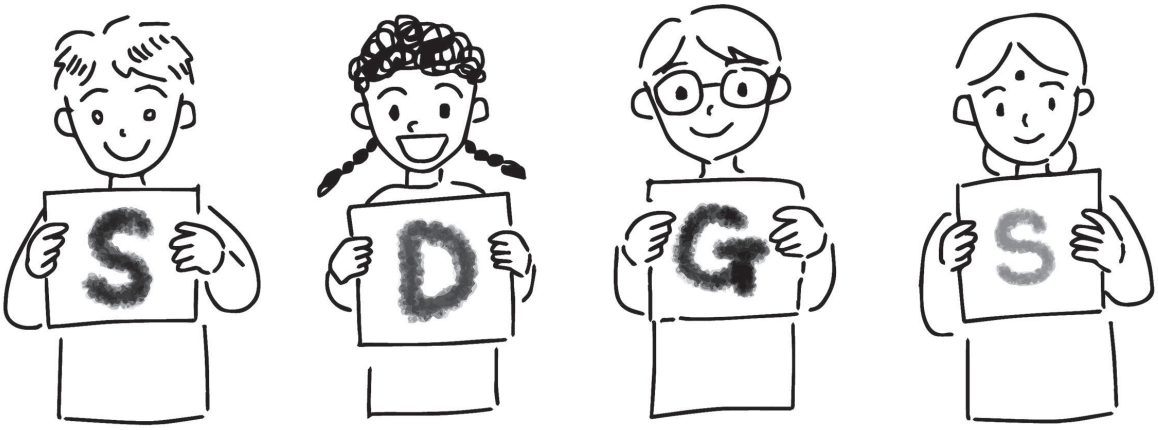
息子の様に障害のある子ども達が少しでも生きやすくなる様、心地良く安心して生活していく為には、「小さい時から一緒に育ち触れ合う機会を増やし、障害教育を理解し障害があっても無くても小さい時から一緒に育っていく機会を作っていくこと」そして「地域の人たちに障害のある人たちのことを、もっと理解してもらい、お互いに知り合って仲間として認めあえるように」という環境こそが、すべての子ども達の心を育てることにつながっていくのではないでしょうか。心が豊かであれば子ども達の未来は輝かしいものになり、世の中の流れも変わっていくと思いますし、また障害者への対応も違ってくると思います。

この世に生を受けたのであれば、ありのまま、その人らしく、地域で暮らす事、住み慣れた地域で、社会の一員として尊重され、自分らしく暮らしたいと思うのは、全ての人々の共通の願いです。

大きな夢を持つことも必要なことです。しかし、小さな夢

の積み重ねが将来的には大きな夢へと繋がります。その小さな夢を周りの大人が支援してあげることで、それが支えになりその子達はいつか語れる時が来ます。

まだまだ、障害者にとっては生きにくい世の中ですが「ぼくがぼくらしく、自分のために」誰もが夢と希望が持てるような未来につながり、少しでも生活しやすい世の中になるように手助けしていきたいと思っています。



令和4年度（2022年度） 人権標語の部　特選作品

またあした
はやくみんなに
あいたいな
東小学校 一年　村上 愛茉

見つけよう
わたしのいいね
あなたのいいね
英賀保小学校 二年　圓尾 彩都子

芽が出たよ!!
やさしい言葉で
笑顔の花が
八幡小学校 三年　渡邊 桜

あかんこと
あかんといえる
おもいやり
砥堀小学校 四年　山本 唯翔

一つの言葉で
変わってしまう
人の心の天気予報
荒川小学校 五年　千古 衣愛

「ありがとう」
「それいいね」
感謝の気持ちと
認め合い
大塩小学校 六年　伊藤 遥貴

大丈夫？
命を繋ぐ
合言葉
豊富小中学校 七年　山本 美月

あたたかいあなたの
笑顔と声かけが
地域をつなぐ
心の懸け橋
琴陵中学校 二年　細谷 悠愛

皆同じ
この時生きる
生命（いのち）です
家島中学校 三年　松浦 愛実

生きるとは
自分の花を
咲かすこと
賢明女子学院高等学校 二年　岩元 綾音

標語・色紙
（字・村上　節子さん）
（画・岸岡あつ子さん）

令和４年度
（２０２２年度）

人権ポスターの部　特選作品

菅生小学校２年
前　田　晟　良

花田小学校１年
グエン　ニュ　アン

花田小学校３年
グエン　ニュ　イ

城西小学校５年
齋　藤　駿　成

手柄小学校４年
田　邉　里衣奈

坊勢中学校１年
岡　田　莉乃有

荒川小学校６年
勢　戸　くるみ

城山中学校２年
中　井　大　輔

姫路南高等学校３年
水　江　栞　理

四郷学院９年
水　野　菜々葉

令和4年度
(2022年度)

啓発用ポスター

人権文化に満ちた社会の実現
「令和4年度特選ポスター・標語」

花田小3年　グエン　ニュイ

花田小1年　グエン　ニュ　アン

菅生小2年　前田　晟良

荒川小6年　勢戸　くるみ

基西小5年　齋藤　駿成

手柄小4年　田邉　里衣奈

またあした　はやくみんなに　あいたいな
東小1年　村上　愛茉

見つけよう
わたしのいいね　あなたのいいね
英賀保小2年　圓尾　彩都子

芽が出たよ!!やさしい言葉で笑顔の花が
八幡小3年　酒邊　桜

あかんこと　あかんといえる　おもいやり
荒堀小4年　山本　唯翔

一つの言葉で　変わってしまう
人の心の天気予報
荒川小5年　千古　衣愛

「ありがとう」「それいいね」
感謝の気持ちと認め合い
大塩小6年　伊藤　遥貴

大丈夫?　命を繋ぐ　合言葉
豊富小中7年　山本　美月

あたたかいあなたの笑顔と声かけが
地域をつなぐ　心の懸け橋
琴陵中2年　綿谷　悠愛

皆同じ　この時生きる　生命です
家島中3年　松浦　愛実

生きるとは　自分の花を　咲かすこと
賢明女子学院高2年　岩元　綾音

姫路聖高3年　水江　紫理

四郷学院後期課程9年　水野　菜々葉

城山中2年　中井　大輔

初certain中1年　岡田　莉乃有

姫路市・姫路市教育委員会

令和４年度(2022年度)　**人権標語入賞者一覧表**

学 年	特 選 者	入　選　者			
小学校 1　年	東小学校 村上　愛茉	野里小学校 長谷川 修太	妻鹿小学校 三浦　大和	英賀保小学校 福田　晄士	御国野小学校 藤原　芽生
2　年	英賀保小学校 圓尾 彩都子	広峰小学校 藤原　小陽	旭陽小学校 城下　弓弦	船津小学校 福永　茉優	古知小学校 北　壮真
3　年	八幡小学校 渡邊　桜	広峰小学校 藤原　仁	安室小学校 松岡　釉月	妻鹿小学校 福田 莉桜愛	英賀保小学校 原　すみれ
4　年	砥堀小学校 山本　唯翔	水上小学校 中村　椿希	船津小学校 清水　景仁	安富北小学校 古井 恒太郎	白鷺小中学校 岸田　昇大
5　年	荒川小学校 千古　衣愛	城西小学校 田中　愛奈	高岡小学校 髙橋　結愛	城陽小学校 澤田　瑚心	家島小学校 小島　仁
6　年	大塩小学校 伊藤　遥貴	城西小学校 岩木　悠	高浜小学校 福居　真歩	余部小学校 米村　美虹	置塩小学校 牛尾　柚花
中学校 1　年	豊富小中学校 山本　美月	城乾中学校 髙濵　由依	書写中学校 野島　颯馬	飾磨中部中学校 井奥　舜士	飾磨西中学校 鈴木　美心
2　年	琴陵中学校 細谷　悠愛	安室中学校 松尾 美衣奈	高丘中学校 松原　鈴	飾磨東中学校 森　彩斗	飾磨西中学校 太田　帆波
3　年	家島中学校 松浦　愛実	家島中学校 田井　輝	安富中学校 松下 木の実	安富中学校 安井　千晴	賢明女子学院中 松原　菜桜
高　校	賢明女子学院高２年 岩元　綾音	琴丘高２年 寺尾　香音	飾磨高1年 春名　啓多	姫路南高2年 黒田　澄音	姫路飾西高2年 ｵｻﾚﾝﾚﾝ ｱﾐｰ

・特選者　１０名　　入選者　４０名　　佳作　６４８名　（応募総数　６９８点）
・特選作品は、姫路市、姫路市教育委員会、姫路商工会議所（企業）等での人権啓発活動に使用されています。

令和４年度(2022年度)　**人権ポスター入賞者一覧表**

学 年	特 選 者	入　選　者			
小学校 1　年	花田小学校 グエン ニュ アン	安室東小学校 町田　遼吾	飾磨小学校 馬竹　杜和	船津小学校 小林　禎来	御国野小学校 野村　珠希
2　年	菅生小学校 前田　晟良	砥堀小学校 早川　旺佑	船場小学校 北野　紗彩	荒川小学校 菊谷　花奏	花田小学校 新田　麗心
3　年	花田小学校 グエン ニュ イ	飾磨小学校 森田　琴葉	広畑第二小学校 岩上　結泉	勝原小学校 日下 いず美	御国野小学校 荒川　陽太
4　年	手柄小学校 田邉 里衣奈	広峰小学校 治田　咲愛	城北小学校 藤本　亜子	東小学校 長谷　璃亜	豊富小中学校 恒藤　瞳汰
5　年	城西小学校 齋藤　駿成	手柄小学校 小寺　晴花	余部小学校 中井　望愛	前之庄小学校 田路　大翔	四郷学院 藤本　海音
6　年	荒川小学校 勢戸 くるみ	砥堀小学校 長濱　希美	城北小学校 村田　真穂	勝原小学校 山片　　葵	林田小学校 森本 アイカ
中学校 1　年	坊勢中学校 岡田 莉乃有	大白書中学校 石見 晄日香	大津中学校 平山　紗也	朝日中学校 大野　睦希	豊富小中学校 上田　沙恵
2　年	城山中学校 中井　大輔	安室中学校 圓尾　晃正	飾磨西中学校 鄙山　彩音	網干中学校 堀井　結愛	白鷺小中学校 今津　壮啓
3　年	四郷学院 水野 菜々葉	琴陵中学校 梅本 かれん	飾磨東中学校 藤本　琉衣	東中学校 菅野　友梨	賢明女子学院中 神足　佳音
高　校	姫路南高3年 水江　栞理	姫路飾西高1年 金澤　聡美	網干高1年 上田　歩未	姫路工業高3年 小畑　咲良	姫路工業高3年 田野　小桃

・特選者　１０名　　入選者　４０名　　佳作　５９７名　（応募総数　６４７点）
・特選作品は、姫路市、姫路市教育委員会、姫路商工会議所（企業）等での人権啓発活動に使用されています。

令和４年度（2022年度）　**人権作文・詩入選者一覧表**

学 年	特 選 者	入　選　者			
小学校 1　年	伊勢小学校 佐藤 まはな	安室東小学校 奥村　侑多	曽左小学校 幸田　紗奈	白鳥小学校 金田　希空	中寺小学校 神田 陽菜美
2　年	大津茂小学校 尾﨑　乃羽	飾磨小学校 藤井　遥慎	勝原小学校 浅野 萌々子	船津小学校 水谷　夢彩	香呂小学校 橋本　小春
3　年	荒川小学校 中野 公太郎	広峰小学校 寺西　彩菜	高岡小学校 清水　駿友	御国野小学校 干谷　陽大	坊勢小学校 敷谷　佳音
4　年	別所小学校 濵口　友哉	高岡小学校 新貝　桃華	広畑小学校 住本　桜耶	勝原小学校 山中　結理	林田小学校 須藤　朝日
5　年	広畑小学校 青枝　昊誠	大津茂小学校 松本　希愛	網干小学校 植木　海翔	豊富小中学校 田中　希歩	置塩小学校 塩飽　悠真
6　年	砥堀小学校 北川　侑良	高岡西小学校 松下　侑生	大津小学校 吉田　匠利	勝原小学校 山下　瑠心	上菅小学校 本郷　陽菜
中学校 1　年	坊勢中学校 桂　明日羽	大白書中学校 明石　成矢	山陽中学校 神﨑　沙和	東中学校 北林　紗英	賢明女子学院中 安田 光志唯
2　年	灘中学校 松井　慎吾	城乾中学校 西本　　琳	城乾中学校 山名　伶奈	東光中学校 坂本　萌留	白鷺小中学校 福永　竣大
3　年	花田中学校 ｸﾞｪﾝ ﾃｨｷﾑ ｲｪﾝ	広嶺中学校 井手 ゆり愛	安室中学校 淺田 こはる	白鷺小中学校 中村 友日花	飾磨西中学校 川上　莉奈
高　校	姫路東高1年 梶本 千紗姫	飾磨高2年 梶原　優加	姫路女学院高3年 桝田 陽菜多	淳心学院高1年 福永　作藏	淳心学院高2年 佐伯　　薫
一　般	野里小校区 寒竹　香子	城乾小校区 沼田　香織	網干西小校区 髙橋　　努	船津小校区 福永　雅文	中寺小校区 萱原　貴洋

・特選者　１１名　入選者　４４名　　佳作　５１１名　（応募総作品数　５６６点）
・特選作品は、姫路市、姫路市教育委員会、姫路商工会議所（企業）等での人権啓発活動に使用されます。

○人権作文・詩　入選作品

（小学校の部）

☆一年生の部

・いのちをありがとう　安室東小　奥村侑多
・つながり　曽左小　幸田紗奈
・ぼくのおじいちゃん　白鳥小　金田希空
・いもうとのヘルプマーク　中寺小　神田陽菜美

☆二年生の部

・ぼくの弟　飾磨小　藤井遥慎
・わたしのゆめ　勝原小　浅野萌々子
・となりのおじさん　船津小　水谷夢彩
・お姉ちゃんって大へんだな！　香呂小　橋本小春

☆三年生の部

・ひいおじいちゃん　広峰小　寺西彩菜
・ぼくの気になる事　高岡小　清水駿友
・コロナとお母さんの仕事　御国野小　干谷陽大
・外国から来たけんしゅう生「Rさん」との交流　坊勢小　敷谷佳音

☆四年生の部

・わたしの弟　高岡小　新貝桃華
・言葉の大切さ　広畑小　住本桜耶
・自分がなりたい自分で生きる　勝原小　山中結理
・おいしいごはんをありがとう　林田小　須藤朝日

☆五年生の部

・私のおばあちゃんが忘れるのは幸せだから　大津茂小　松本希愛
・命　網干小　植木海翔
・知ろう学ぼう、人権ルーム　豊富小中　田中希歩
・助け合うということ　置塩小　塩飽悠真

☆六年生の部

・おじいちゃん　高岡西小　松下侑生
・平等をねがって　大津小　吉田匠利
・言葉の意味を考えて　勝原小　山下瑠心
・夜間中学校について学んでみて　上菅小　本郷陽菜

（中学生の部）

☆一年生の部

・今本当に平和なのか　大白書中　明石成矢
・皆が平等　山陽中　神﨑沙和
・視覚障害者について　東中　北林紗英
・ＬＧＢＴについて私なりに考えてみる　賢明女子学院中　安田光志唯

☆二年生の部

・「ちょっとした心づかい」それが自分にできること　城乾中　西本琳
・手話の大切さ　城乾中　山名伶奈
・性別の差別　東光中　坂本萌留
・平和について考える　白鷺小中　福永竣大

☆三年生の部

・「献血」について　広嶺中　井手ゆり愛
・国際交流が教えてくれた大切なこと　安室中　淺田こはる
・積み重なって作られる心　白鷺小中　中村友日花
・理解しようとするだけでも　飾磨西中　川上莉奈

（高校生の部）

・一歩ずつ　飾磨高二年　梶原優加
・ヘルプマークについて　姫路女学院高三年　桝田陽菜多
・障害者が堂々と生きる社会に　淳心学院高一年　福永作藏
・「遠慮」が生み出す距離　淳心学院高二年　佐伯薫

（一般の部）

・認めあう心　城乾小校区　沼田香織
・人権について　網干西小校区　髙橋努
・我が子・村の子・地域の子・地域全体で　船津小校区　福永雅文
・言葉づかい　中寺小校区　萱原貴洋

姫路市立城西小学校 5年
齋藤　駿成 さんの人権ポスター

あかんこと　あかんといえる
おもいやり

姫路市立砥堀小学校 4年　山本　唯翔 さんの人権標語

発　行／姫路市教育委員会
発行日／令 和 5 年 3 月

再生紙を使用しています